

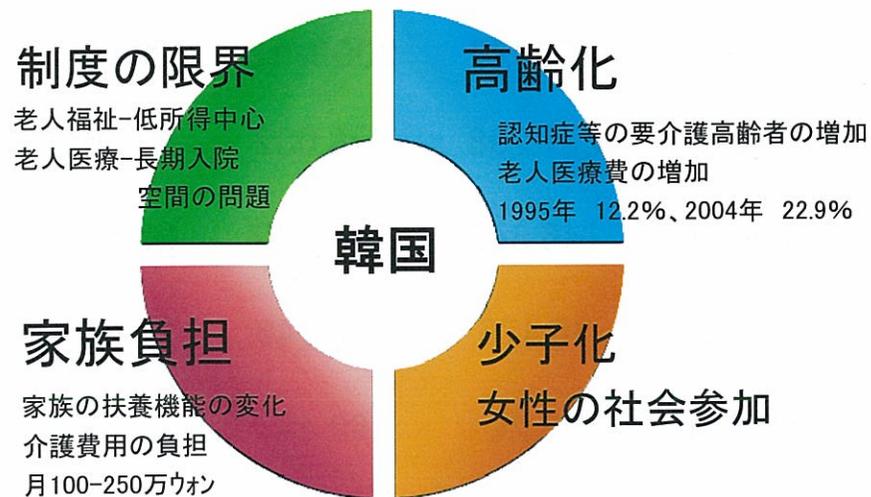
韓国の老人長期療養保険制度と ヒューマンパワーの育成

大邱サイバー大学 リハビリ福祉学科
崔 太子
choiasp2007@yahoo.co.jp

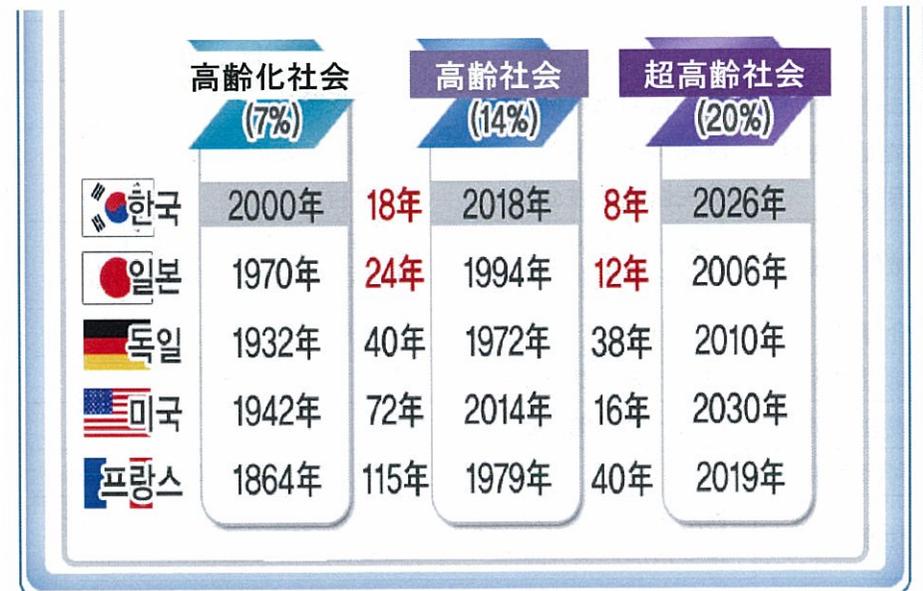
発表内容

- ☑ 制度導入の背景
- ☑ 制度の概要
- ☑ 実施1年の成果と課題
- ☑ 人材育成の現状と課題

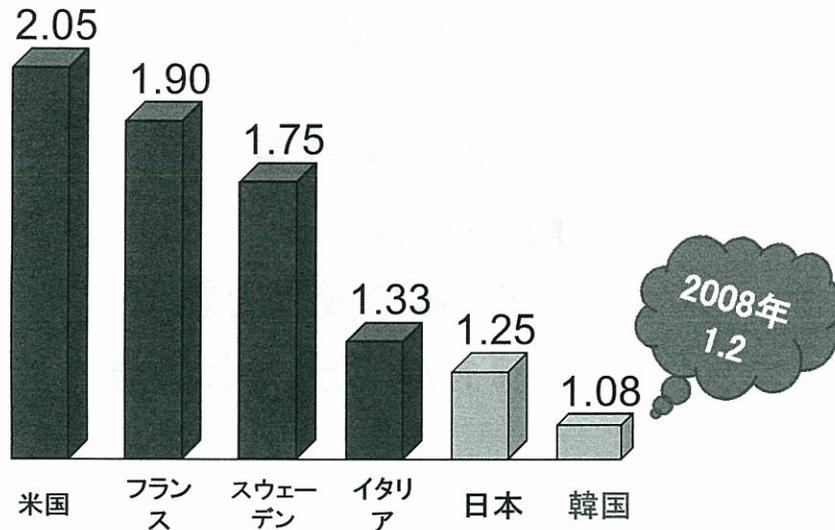
老人長期療養保険制度導入の背景



主要国の人口高齡化の推移



合計特殊出生率の比較 (2005年現在)



制度の概要-日韓比較

	韓国	日本
法律名称	老人長期療養保険法	介護保険法
制度の性格	医療保険活用型	独立型・地域保険型
保険者	国民健康保険公団	市町村
被保険者	65歳以上老人と 64歳以下の老人性疾患	第1号被保険者(65歳以上) 第2号被保険者(40歳~64歳)
介護度	3段階	7段階
給付内容	在宅・施設サービス	在宅・施設サービス
現金給付	離島・過疎地など	なし
利用者負担	在宅 15%, 施設 20%	在宅施設とも10%, 施設は食費と居住費
財源構成	利用者負担 + 保険料 + 国と自治体の補助金	利用者負担 + 保険料 + 公費 公費は国と自治体

家族の扶養機能の変化

- ① 伝統的な文化の急速な変化
- ② 家族の構造と同居形態の変化、一人暮らし高齢者の増加
- ③ 家族の扶養行動変化、規範的文化と現実的な行動間のずれ
- ④ 介護費用の家族負担

実施1年の成果と課題

①介護認定申請者、認定者の状況

区分	2008/7	2008/12	2009/5
申請者	271,298	376,032	472,647
認定者	146,643	214,480	<u>259,456</u>
利用者	76,476	148,749	<u>202,492</u>
利用率	52.2%	69.4%	<u>78%</u>

課題(1)

・利用者の限定

世界専門家の規範的基準:8%-20%

-ドイツ、日本 10%-15%

-韓国政府の諮問委員会:12%-15%

-5%を10%以上へ拡大必要

・サービス提供機関の乱立

-不正請求、利用者の取り合い、重度利用者の入所拒否

・高齢者の本人負担問題

-年金などの所得保障の問題

人材養成の現状

療養保護士

・国家資格

・1級:240時間、身体介護+家事援助

・2級:120時間、家事援助のみ

・年齢、性別、学歴制限無し

課題(2)

ケアマネジメントシステムの不在

-アセスメントの問題

-ケアプランの問題

-サービスの質の問題

-保険者と事業所の重複ケアプラン作成

-ニーズ中心よりサービス中心

-保険者の財政管理中心のシステム

・人材養成の問題

教育時間

区分		総時間	理論	実技	実習	
1級	新規	240	80	80	80	
	経歴	その他	160	80	40	40
		施設・在宅	140	80	40	20
		施設+在宅	120	80	40	0
	国家資格所持者	社会福祉士	50	42		8
		看護師	40	32		8
PT/OT/看護助務士		50	42		8	
2級	新規	120	40	40	40	
	経歴	その他	80	40	20	20
		施設・在宅	70	40	20	10
		施設+在宅	60	40	20	0

実施1年の成果と課題

②サービス提供機関の増加

区分	2008/7	2008/12	2009/5
訪問介護	2,823	4,362	<u>6,031</u>
訪問入浴	1,654	3,006	<u>4,271</u>
訪問看護	461	626	<u>688</u>
デイサービス	641	806	<u>925</u>
ショートステイ	397	691	<u>1,020</u>
介護用品	364	733	<u>880</u>

施設は2008/7月に1,395ヶ所、2009/5月に2,016ヶ所

実施1年の成果と課題

③ケアワーカー養成機関及び資格取得者の増加

区分	2008/4	2008/6	2008/12	2009/4
養成機関	941	1,009	1,080	<u>1,137</u>
資格取得者	9,952	70,355	333,984	<u>456,633</u>

実施1年の成果と課題

④雇用の創出

区分	2008/6	2009/5
ケアワーカー	23,853	<u>120,342</u>
サービス提供機関従事者	13,830	<u>27,074</u>
養成機関従事者	553	<u>7,742</u>
介護用品事業所従事者	-	<u>1,303</u>
保険者(公団)	1,036	<u>1,036</u>
合計	39,272	<u>157,497</u>

実施1年の成果と課題

⑤満足度調査

(韓国ギャラップ、2009年6月)

- 回答者の40.2%が元気になったと回答
- 介護認定更新者の24%が介護度好転
- 回答者の79.8%が介護環境がよくなったと回答
- 回答者の80.8%がより計画的かつ専門的サービスを利用できるようになったと回答
- 回答者の91.7%が心理的負担が減少したと回答

人材養成の課題

教育内容

科目	教育内容
介護概論(25)	制度及びサービス
	職業倫理と姿勢、人権と虐待
	対象者の理解
介護関連基礎知識(21)	医学、看護学的基礎知識
介護各論(114)	基本介護技術
	家事及び日常生活支援
	コミュニケーション及び余暇支援
	サービス利用支援
	記録及び報告
現場実習(80)	施設＋在宅

④ 現状及び問題

- 養成機関の乱立
- 過剰競争、不法運営

④ 対応策

- 養成機関の設置条件の強化
- 教科過程の強化
 - ・認知症ケア、ケアワーカーの人格教育
- 教育内容、対象、講師の資格
- 実習機関の問題
 - ・実習指導者の問題
 - ・在宅実習の経験不足

ケアワーカー処遇の課題

④ 現状及び問題

- 40代、50代の主婦が多く、給料、勤務条件がバラバラ
- サービス提供機関の乱立でケアワーカーの勤務条件をさらに悪化させる可能性あり

④ 対応策

- サービス提供機関の適切な規模及び管理体系でケアワーカーの人件費の大幅強化、教育場所確保
管理責任者の役割強化
- ケアワーカーの勤務条件及び福祉水準の向上
 - ・標準勤労契約、正規職員、実態調査の実施
- ケアワーカー自身とケアワーカーへの社会的認識
 - ・ケアワーカー自身の動機と目標
 - ・家政婦扱い(多くの人々)



ありがとうございました